

お盆を迎える季節となりました。

お盆は、亡くなった懐かしい方々にお会いする時節です。

私達が子供だった頃のことを思い出してみる時、私達の後ろには、頑固で気難しかつたけれど、いざという時、しつかりと抱きとめてくれるであろうお父さんがいました。又、丈夫な体をつくるように、自分の食べる分を減らしても、私達に栄養のある美味しい物を食べさせてくれたお母さんがいました。

何ともありがたいことです。

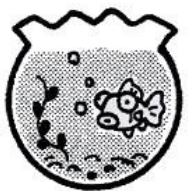
仏道では、人々に感謝することをすすめますが、感謝は相手の為にするのではなく、感謝するこ  
とで、私達の心は、静かに澄んできます。感謝は、私達の心を暖かく豊かにしてく



ご夫妻が亡くなられた今、その娘さんは、正月命日はもとより、両彼岸、お盆、暮と足繁くお寺に通つていらつしやいます。

妻が「ご両親さまがそのようにお話ししていらつしやつたので、どうぞご負担に思われぬ程度に御参り下さい」と話したようですが、誰に強制されることなく、純粹に親子を想う親の心が、自然に伝わっていかうら、子もまた親を想う心を失うことがないのでしよう。花筒にさされた四季折々の花をみるたびに、「優しい娘さんをお育てになられたのですね」と、語りかけたくなります。

このYさん達のように、若い人達のことを思い、早々と入負担を軽いうお年



近頃は老人施設に所し、若い人達の減してあげたいと寄りが増えている

れるものなのです。

感謝の思いと共に、私達の心は深くなり、円満な仏様の心に近づいてきます。慈悲や智恵、勇気や忍耐といった力がついてきます。

そこには両親が祈り、願つてくれた私達の幸せが具現されていると思うのです。

### 子の心。親の心

Yさんという夫婦がおられました。

「永代供養というのは、お寺さんが全て責任をもつて管理して下さると聞きましたが、後々、娘には金銭やお墓参りの義務や約束事など、縛るものは何もありますか」などと、いろいろな質問をしたあと、将来、一人娘さんに、自分達が負担をかけることになつてはいけなないと夫婦で熟慮し合い、納得し、永代供養の墓を求められ、生前戒名も方丈さんにいただいで、永代墓に彫刻までなさつていらっしゃる方でした。

そうです。

それぞれの家庭のご事情もおありのこと、一概にくくつて、その善悪を云々しようとは思いませんが、私の妻も、友達と集まると、同じようなことを話しているようです。しかし私には、互いを思いやるがために余りにも遠慮が過ぎているようにも思えます。ずかずかと互いの心に踏み入ることはよいこととは思えませんが、その盛りである若い人達の生き方を応援するのであれば、その思いを忌憚なく述べ、多少の行き違いがあつても修正し合つていけばよいのであつて、多いに甘えたり、甘えられたりすればよいのではないのでしょうか。

子に迷惑をかけたくないというのも親心なら、子の心はどうでしょうか？

私達が老いた親を見ている時「いやだなあ」という思いでしか、親と接していなかつたのでしょうか？

「仕方がないなあ。こんなにぼけちゃつて」と嘆きつつも、そんな親達と共有する時間を決して嫌がっていなかったように、私達の子供も又、死へ向かって行進する親との別れを、一生懸命惜しんでくれるような気もするのです。



○つまづきも

いつの日か

力となる

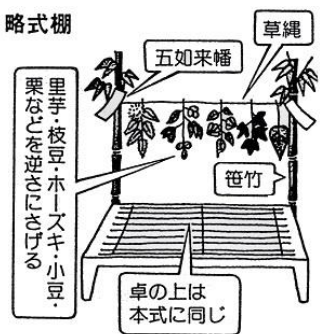
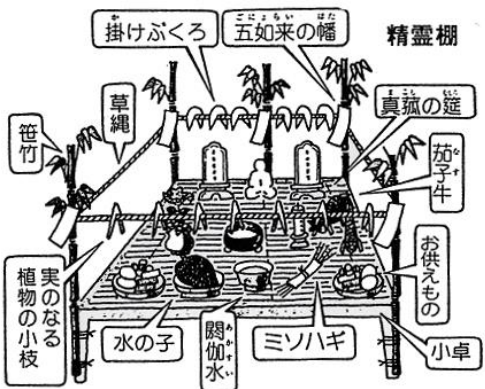
○ご縁がなければ 何もおこりません

ご縁があつたからこそ 生まれたのです

ご縁が結ばれたこそ 会えました

ご縁をいただいて 有難うございました

### お盆を迎える準備



私信

毎晩、床について必ず一人ひとりの子や孫の顔を思い浮かべ、"どうぞ幸せにあれ"と願いながら、眠りについていきます。もしそのうちの一人にでも心配なこと不幸なことが襲つていると、眠れない夜もあります。私達のいのちは、自分を初代にして十代さかのぼると、千人以上の親や先祖がいる計算になるそうです。その人達は皆、へ子や孫の幸せを一途に願い、懸命に生きてこられました。そういう人達に守られて、願われて、今を生きる私との思いが近年よく感じられます。だから、そのいのちを受継いでいることに気づかねばならないとも思います。私達の幸せを願ってくれた、大切なご先祖さまのありし日を偲び、守られて生きるありがたさをしみじみ感じ、お盆を丁寧にお迎えしたいと願っています。

(安藤百合子)

精霊棚は、御先祖様の霊をお迎えし、供養する祭壇です。精霊棚が普通の仏壇と違うのは、水の子（茄子とキュウリを細かく刻んで洗米と混ぜたものを、蓮か里芋の葉にのせる）と、閻伽水（あかすい）どんぶりに入れた供養の水）それに茄子の牛とキュウリの馬を用意すること位でしょうか。こうしたしきたりは、何が正しく、何が間違つているといふものではありません。この頃は、お盆近くになると、やおやさんや花屋さんなどでも、いろいろな材料が売られていようです。あまり難しく考えないで、要は気持ちなのです。色々工夫なされるのがよいでしょう。大切なことは、先祖の霊を敬う心なのですから。

---

---





